令和6年度第2回小牧市上下水道事業経営審議会

1 日時

令和6年7月17日（水）午前10時から正午まで

2 場所

味岡市民センター 2階 視聴覚室

3 出席委員（敬称略）

榎本 訓康 公益財団法人 愛知水と緑の公社 常務理事兼下水道部長
大野 泰典 税理士
萩原 聡央 名古屋経済大学 法学部 教授
平山 修久 名古屋大学 減災連携研究センター 准教授
佐藤 萬明 小牧市区長会 理事（片町区長）
酒井 美代子 小牧市女性の会 会長
谷口 里美 小牧市消費生活改善推進員会
廣野 友巳 小牧商工会議所 常議員（デリカ食品工業株式会社 代表取締役）
岩崎 至 一般公募者
馬場 容子 一般公募者

欠席委員

なし

4 事務局

笹尾 拓也 上下水道部長
三品 克二 上下水道部次長
横山 宗裕 上下水道経営課長
早稲田 宏 上下水道業務課長
船橋 裕一 上下水道施設課長補佐
石田 哲也 上下水道経営課経営係長

倉田 和典 上下水道経営課下水道経理係長
大平 守 上下水道業務課給水係専門員
杉田 康明 上下水道経営課経営係主査
松富 祐太 上下水道経営課経営係主事

5 傍聴者

1名

6 議事

(1) 下水道事業の使用料体系の検討について

7 内容

【事務局】

おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第2回小牧市上下水道事業経営審議会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。全体の司会進行役を務めさせていただきます上下水道部次長の三品でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。事前に送らせていただいておりますが、次々と、裏面に審議会の委員名簿が載った1枚紙と、資料1、資料2になっております。本日、もしお持ちでない資料がございましたら、事務局に用意がございますので、お申し出いただきますようお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

開催に当たりまして、上下水道部長の笹尾より御挨拶申し上げます。

【事務局】

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、また、足元の悪い中、令和6年度第2回の小牧市上下水道事業経営審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

前回の審議会ですとまとめでいただきました意見書につきましては、市長に報告し、提出をさせていただきました。ありがとうございました。

また、本日の会議では、引き続きまして適正な下水道使用料について審議をしていただきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、様々な視点から活発な御議論をお願いしまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、萩原会長より御挨拶をいただきます。

【萩原会長】

それでは、改めまして、皆様、おはようございます。

本日の会議でも、前回の会議に引き続きまして、下水道使用料の改定について議論していくということです。委員の皆様方におかれましては、どうぞ御忌憚のない御意見を賜りまして、実りのある会にしていきたいと思っておりますので、御協力くださいますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、冒頭の挨拶といたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、次第に則りまして、次第の2、会議の公開について説明いたします。小牧市審議会等の会議の公開に関する指針では、審議会等の会議は原則として公開することとされておりますので、本審議会につきましても公開とさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日の傍聴者は1名の方でございます。御報告させていただきます。なお、記録用として、随時、撮影、録音させていただくとともに、議事録につきましても、発言者名については非公開にした上で、市ホームページなどで公開させていただきますので、併せてお願いいたします。

それでは、ここで1つ報告をさしあげます。本日の出席議員につきましては10名でございます。したがって、小牧市上下水道事業経営審議会条例第6条第2項の規定によりまして、この会議が成立していることを報告させていただきます。

なお、本会議の終了時刻は正午頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以後につきましては、小牧市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項に基

づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、萩原会長、よろしく願いいたします。

【萩原会長】

それでは、お手元の次第に基づいて進めたいと思いますが、委員の皆様の御協力をよろしく願いいたします。

次第3の議事に入ります。次第3、(1)「下水道事業の使用料体系の検討について」を議事といたします。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

本題に入る前でございますが、前回の審議会で出た御意見の中で、次回の審議会でお返事をさせていただくとした2件について御説明をさせていただきます。

資料1を御覧ください。着座にて説明させていただきます。失礼いたします。

資料1の表紙をめくっていただいて2ページをお願いいたします。

確認事項の1つ目としまして、「新型コロナウイルスの影響について」でございます。具体的には、前回の資料は過去との比較をして、平成24年度と令和4年度を比較していますが、「令和4年度は新型コロナウイルスの影響を考慮すべきではないか」という御意見でございます。

新型コロナウイルスは、日本では令和2年1月上旬に国内で初めて感染者が確認されてから爆発的に感染が拡大しました。新型コロナウイルスによるパンデミックが終了したとする目安としましては、感染症法上2類から5類に移行した令和5年5月8日が考えられますが、それ以前から徐々に感染症拡大以前に生活が戻りつつありましたので、令和4年度に影響が残っているかというところの確認が必要になってきます。コロナ禍では家にいることが多くなり、一般的に1人当たりの排水量は増える傾向にあると言われております。そこで、平成30年度から令和5年度まで、家庭排水量を年度末接続人口で割って、1人当たりの年間平均排水量を出したのが2ページの表でございます。表を確認しますと、令和2年度、3年度は1人当たりの排水量が上がっており、新型コロナウイルスによる自宅待機の影響があると想定されますが、令和4年度は、平成30年度、令和元年度よりも下がっており、影響はないものと想定されます。

3ページをお願いいたします。

確認事項の2つ目でございます。「調定件数の増加理由について」でございます。調定件数とは、検針結果を基に使用料を請求した件数のことでございます。検針は2か月に1度ですので、調定件数の6分の1がおよその契約数になります。前回の資料の中で、平成24年度と比べて令和4年度の調定件数が1.5倍に増えているという結果が出ていましたが、「下水道普及率等を考慮するとそこまで増加するとは考えにくい、何か理由があるのではないか」という意見でございます。

こちらにつきましては、資料を再確認しましたところ、共用として契約しているものについて、平成24年度と令和4年度で計上方法が異なっており、その結果、平成24年度は契約者の件数で、令和4年度は利用世帯数の件数となっていたため、令和4年度が本来の契約者数より増加していることが判明しました。共用とは、「社員寮など複数の利用世帯がいるものを1つの親メーターで検針して、これを各世帯が均等に使用したものとして計算して1人の契約者が支払うものこと」でございます。平成24年度は共用の情報がなく1件として計上していたものを、令和4年度は共用を分割して計上していました。例としまして、200件の共用で1か月5,000m³の使用の場合、平成24年度は5,000m³の水量区分に1件を計上しているのに対して、令和4年度は25m³の水量区分に200件を計上しております。このため、令和4年度は、平成24年度に対して契約者数の増加はあったものの、共用分割による増加としたため、大きく件数が増加してしまったものでございます。

1枚めくっていただいて、4ページを御覧ください。

前回の審議会でも御説明した調定件数を水量別に比較したものでありますが、今回は平成24年度を表の上段、青色のグラフとして、令和4年度を共用分割後の表の下段、灰色のグラフとして比較をしておりました。これに令和4年度の契約者数で計上したものを表の中段、オレンジ色のグラフとして追加したものでございます。同条件である青色とオレンジ色のグラフを比較すると、前回比較した灰色グラフと比べると推移は緩やかではありますが、小口利用者が増加傾向にあることは分かります。また、水色とオレンジの調定件数の合計を比較すると約1.26倍となりまして、接続世帯数の増加率などと比較して、大きく変わらない数字になってございます。また、表、グラフの題名として調定件数とありますが、本来の調定件数として正しいのは共用分割前の青色とオレンジ色のグラフで、共用分割後の灰色のグラフは水量区分を実態に合わせるために加工した使用水量別世帯数になります。

5ページを御覧ください。

使用水量の内訳比較について、令和4年度の契約者数で計上したものをオレンジ色のグラフとして追加したものでございます。こちらも同条件である青色とオレンジのグラフを比較すると、前回比較した灰色グラフと比べると推移は緩やかではありますが、小口利用者が増加傾向、大口利用者が減少傾向にあることは分かります。

1枚めくっていただきまして6ページを御覧ください。

4ページ、5ページのグラフを割合として比較したものでございます。調定件数について、青とオレンジを比較しても大口使用者が減り、小口使用者の割合が増えていることが分かりますが、オレンジと灰色を比較すると11～20㎡の割合が伸びております。これは、共用使用者の中にこちらの区分の利用者が特に多かったためだと思われれます。

なお、平成24年度との比較資料として、今回条件を同じにしたオレンジ色のものを追加しましたが、後ほど出てきますが、資料2の使用料体系の検討に当たりましては、各使用世帯の排水量を正しく反映した灰色のグラフの数値を資料として使用しますので、よろしくお願いたします。

また、本題に入る前に、今の資料1の御説明について、さらに質疑等ございましたらお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

説明は以上でございます。

【萩原会長】

ありがとうございました。ただいま資料1に係る事務局の説明が終わりました。御質問、御意見などございましたら発言をお願いいたします。なお、発言いただく場合は、挙手をしていただき、お名前をお呼びいたしますので、その後に御発言してください。それでは、よろしくお願いたします。

A委員、お願いします。

【A委員】

今、共用分割だったということを伺いましたが、それはそれで分かったと思います。

1つお聞きしたいのは、共用分割した人というのは、便宜的に戸数で割ったマンションみたいなものを想定しているのでしょうか。戸数で割って、1件当たりの使用料を計算していますが、ちなみに料金は、親メーターというか、後で料金体系の話が出てくると思いますが、たくさんの水量を使ったところの料金体系で、カウントしているということなの

でしょうか。

【事務局】

メーターの検針については、親メーター方式のものと、集中検針のものがあります。集中検針は、初めから個別に請求をさせていただいていますが、親メーター方式のほうは、小牧市と個別に料金を計算するという契約を結んでいただいたマンションとかアパートに関しては、水量を当てはめて計算をし、料金を請求しています。契約のない親メーターに関しては、親メーターで測った超過水量分を計算して請求するという形を取っております。

【A委員】

ありがとうございました。

【萩原会長】

そのほかに委員の皆様、御意見、御質問等ありますでしょうか。ありませんか。

それでは、資料1に係る説明については特に御質問ないということにして、御意見もないようですので、引き続き事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

では、引き続いて御説明をさせていただきます。

資料の2をお願いいたします。

表紙をめくっていただきまして、3ページをお願いいたします。

こちらにつきましては前回のおさらいになりますが、使用料体系改定の課題の確認でございます。小牧市の現況として、以下の3点が挙げられます。1つ目に、人口が徐々に減少しており、世帯内人口も減少する見込みです。2つ目に、使用水量20㎡未満の割合が増加しています。最後に、大口使用者は10年前に比べて減少しており、100㎡以上の使用世帯数は1%未満でございます。これらの現状から、使用料体系の検討に当たって課題を整理しますと、まず安定した事業運営のためには、使用水量が少ない利用者に御負担いただく体系の検討が必要だということが挙げられます。続いて、使用水量10㎡以下の住民が増える中、使用者間の公平感を確保するため、基本水量の廃止の検討が必要だということが挙げられます。最後に、従量使用料の最大区分追加による使用料増加の効果は低いと想定

されます。

1枚めくって4ページをお願いいたします。

使用料体系の見直し項目を再確認させていただきます。①から順に、①用途別使用料の検討、②基本使用料と従量使用料の収入割合、③基本水量及び基本使用料、④従量使用料の使用水量区分、⑤従量使用料の単価とありますが、今回はそのうちの②の基本使用料と従量使用料の収入割合と③基本水量及び基本使用料について検討したいと思っております。

5ページをお願いいたします。

体系案の検討区分でございます。

まず、②の基本使用料と従量使用料の割合でございます。人口が減少する中で、持続可能な経営を行うためには基本使用料の確保が必要でございます。小牧市の令和4年度決算での比率は、基本対従量が4対6なのに対して、全国平均は基本対従量が3対7となっております。そこで、前回の審議会でも御提案いただいたように、4対6と3対7、そして、その中間である3.5対6.5の3パターンを検討します。

次に、③基本水量の有無でございます。基本水量とは、現行の料金体系で1～10m³の無料分のことでございます。3ページでも御説明しましたが、使用者間の公平感を確保するため、基本水量の廃止の検討が必要でございます。近年の他団体事例においても基本水量は廃止する自治体が多いようです。そこで、今回は基本水量ありとなしの2パターンを検討いたします。

最後に、4ページでいう④と⑤、従量使用料の改定方法ですが、基本的な改定方法として定率改定と定額改定の2つがあります。定率改定としては、例えば11～20m³の単価79.2円も501m³以上の単価176円も同じく30%増加するという方法で、大口使用者の方が元の単価が高いため、負担増加幅も大きくなります。それに対して、定額改定とは、例えば11～20m³の単価79.2円も501m³以上の単価176円も同じく20円増加するという方法で、元の単価が低い小口使用者の方が負担増加幅も大きくなります。今回は基本的な改定方法である定率改定と定額改定の2パターンによる検討をいたします。そして、体系案をある程度固めてから、それぞれの水量区分の詳細な検討を行いたいと思います。

1枚めくっていただきまして、6ページをお願いいたします。

使用料体系案を絞り込むに当たっての判断基準を御説明いたします。

7ページをお願いいたします。

先ほどの資料1の6ページと同じものになりますが、調定件数と排水量の使用水量区分

による割合で整理したものでございます。平成24年度の青色と令和4年度のオレンジ色と比較すると、水量区分が低いところの割合が増えていることが分かります。また、令和4年度の調定件数、排水量の共用を分割して、より各世帯の使用水量に合わせたものが灰色になりますが、灰色のグラフでは40m³を超える大口使用者の割合が非常に少ないことが分かります。

1枚めくっていただきまして、8ページをお願いいたします。

先ほどの灰色のグラフのうち、0m³から40m³を1m³ずつ計上したものでございます。調定件数の共用を分割して使用世帯数に合わせたものが緑色の棒グラフで、それぞれの排水量を積み上げたのが折れ線グラフになります。棒グラフを見ていただくと19m³にピークがあり、20m³を超えると、件数が急激に下がっていくのが分かります。また、7m³にも1つピークがありまして、一人暮らしの使用水量がこの近辺であると推測されます。このグラフから、将来的に安定した収入を確保するためには、今後は小口使用者、特に0～10m³、11～20m³の使用者から使用料を徴収する必要があることが分かります。

9ページをお願いいたします。

「判断基準について」でございます。令和7年度から令和9年度の算定期間3年間の収入見込みを従量使用料区分で分けたものに対して、各区分で均一に30%値上げした場合の増加額を表とグラフにしました。先ほど述べましたように、将来的に安定した収入を確保するためには、今後は小口使用者、特に0～10m³、11～20m³の使用者からの使用料を徴収する必要がありますので、それぞれの使用料体系案に対して同様に従量使用料区分で使用料増加率を確認する表、グラフを作成し、9ページの表、グラフに対して0～10m³、11～20m³の使用者からの収入が増加しているか、つまり赤色の破線で囲った部分、この部分がそれぞれのパターンにおいて、この金額を超えているかを判断基準にしたいと思っております。

1枚めくって10ページをお願いいたします。

使用料体系案を作成し、それぞれが判断基準に適合しているかを確認いたします。

11ページをお願いいたします。

4ページで御説明したとおり、今回は基本使用料と従量使用料の割合で、小牧市の現行と同じ4対6、全国平均と同じ3対7、そして中間の3.5対6.5の3つのパターンを検討することとしました。そして、基本水量はありとなしの2パターン、従量使用料の増加方法については、定率増と定額増の2パターンを考えることとしましたので、全部で12パター

ンを考えることとなります。これを上から順に①－1から⑥－2まで番号を振ってご
います。ただし、12パターン全部を計算して確認するのは大変ですので、ここで明確に判断
基準を満たさないものをご確認したいと思っております。

1枚めくって12ページお願いいたします。

基本使用料と従量使用料の割合について3パターンを示しましたが、実際に1回目の改
定後の基本使用料と従量使用料が目標の比率になるように30%改定を行うとき、基本使用
料、従量使用料それぞれ必要な改定率は表のとおりでございます。4対6は現在と同じで
るので、改定率は基本使用料、従量使用料両方とも同じ30%です。これを3.5対6.5にしよ
うとしますと、基本使用料は15%改定、従量使用料は40%の改定になります。さらに、3
対7まで変えようとする、基本使用料はマイナス3%の改定、従量使用料は53%のプ
ラス改定になってしまいます。

ここで、基本水量ありの場合を考えますと、0～10m³の利用者は基本使用料のみを支払
うので、増加率は基本使用料の改定率と等しくなります。先ほどの判断基準で、0～10m³
の区分は収益の増加率30%を超えることを目標としましたが、3.5対6.5や、3対7は0～
10m³の区分は収益の増加率30%を超えないことは明白でございます。

また、基本水量なしの場合でも、3対7では0m³の利用者は、基本使用料のみ支払うの
で値下げとなります。使用料改定で値上げをする中で値下げとなる層が出てくるとい
うのは不公平感が生まれることを考慮すると、これも検討対象から外すものと思われま
す。

13ページをお願いいたします。

先ほどの説明から、今回は基本使用料と従量使用料の割合が、3.5対6.5で基本水量あり
は判断基準から外れることとなります。また、基本使用料と従量使用料の割合が3対7の
場合は、この基本水量のありなしにかかわらず判断基準から外れます。ここから11ペ
ージの12パターンのうち、③－1、③－2、⑤－1、⑤－2、⑥－1、⑥－2の6パターンは
計算するまでもなく判断基準から外れることとなり、実際に1回目の改定後に全体で約
30%の収入増加となる場合に判断基準を満たすのか確認するものは、①－1、①－2、②
－1、②－2、④－1、④－2の6パターンとなります。

なお、次ページから、①－1から順に使用料体系を計算して判断基準を満たすのか確認
しますが、基本水量なしの場合の10m³までの従量使用料単価は、1m³当たり10円と仮置
きして検討することといたします。

1枚めくっていただいて14ページをお願いいたします。

①-1、基本水量は継続、基本使用料と従量使用料の割合が4対6、従量使用料は定率増加のパターンでございます。この場合、基本使用料を30%増額、従量使用料の単価を一律30%増額となります。使用料体系は基本使用料が215円増の933円、従量使用料は定率増ですので水量区分が大きいほど増額も多くなります。全てを30%増加していますので、使用水量による使用料増加はどの水量区分も30%増加となっております。

15ページをお願いいたします。

判断基準に基づきまして、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、使用料単価設定時の端数整理による若干のずれはありますが、全ての使用料区分で30%増加することには変わりはないので、判断基準である小口使用者の30%を超える増加は見込めないこととなります。

1枚めくっていただいて16ページをお願いいたします。

続きまして、①-2になります。こちらは基本水量が継続、基本使用料と従量使用料の割合が4対6、従量使用料は定額増加のパターンでございます。この場合、基本使用料を30%増額、従量使用料の単価を一律29円増額となります。使用料体系は基本使用料が215円増の933円、従量使用料は全ての水量区分で29円の増加でございます。

使用水量による使用料増加を確認しますと、0^m、10^mの使用者は30%増加、20^mから50^mまでの使用者は30%を超える増加、それ以上の使用者は30%未満の増加となります。

17ページをお願いいたします。

判断基準に基づきまして、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、11~20^mまでの水量区分の増加率は30%を超えるものの、①-1と同様、0~10^mまでの水量区分の増加率は30%から変わりません。そのため、これも判断基準を満たさないこととなります。

1枚めくっていただきまして、18ページをお願いいたします。

続きまして、②-1になります。こちらは、基本水量については廃止、基本使用料と従量使用料の割合が4対6、従量使用料は定率増加のパターンでございます。基本使用料を30%増額、基本水量を廃止した10^mまでの単価を10円としますと、11^m以上の従量使用料の単価は一律22%の増額となります。使用料体系は基本使用料が215円増の933円、従量使用料は定率増ですので水量区分が大きいほど増額も大きくなります。使用水量による使用料増加を確認しますと、10^m、20^mの使用者は30%を超える増加、30^m以上の使用者は30%未満の増加となります。

19ページをお願いいたします。

判断基準に基づき、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、0～10 m³までの水量区分が37%の増加、11～20 m³までの水量区分が36%増加と、両方とも30%を超えており、判断基準を満たすこととなります。

1枚めくっていただきまして、20ページをお願いいたします。

こちら②-2でございます。基本水量は廃止、基本使用料と従量使用料の割合が4対6、従量使用料は定額増加のパターンでございます。基本使用料を30%増額、基本水量を廃止した10 m³までの単価を10円としますと、11 m³以上の従量使用料の単価は一律21円の増額となります。使用料体系は基本使用料が215円増の933円、11 m³以上の従量使用料は全ての水量区分で21円の増加でございます。使用水量による使用料増加を確認しますと、0 m³、40 m³の使用者が30%の増加で、その間の使用者が30%を超える増加、50 m³以上の使用者は30%未満の増加となります。

21ページをお願いいたします。

判断基準に基づきまして、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、0～10 m³までの水量区分が37%増加、11～20 m³までの水量区分が38%増加と、両方とも30%を超えており、判断基準を満たすこととなります。

1枚めくっていただきまして、22ページをお願いいたします。

こちらは④-1でございます。基本水量は廃止、基本使用料と従量使用料の割合が3.5対6.5、従量使用料は定率増加のパターンでございます。基本使用料は15%の増額となり、基本水量を廃止した10 m³までの単価を10円としますと、11 m³以上の従量使用料の単価は一律33%の増額となります。使用料体系は基本使用料が110円増の828円、従量使用料は定率増ですので水量区分が大きいほど増額も多くなります。使用水量による使用料増加を確認しますと、0 m³、10 m³の使用者は30%未満の増加、20 m³以上の使用者は30%を超える増加となります。

23ページをお願いいたします。

判断基準に基づきまして、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、0～10 m³までの水量区分が22%の増加となり、30%未満の増加のため判断基準から外れることとなります。

1枚めくって24ページをお願いいたします。

こちらが④-2となります。基本水量は廃止、基本使用料と従量使用料の割合が3.5対

6.5、従量使用料は定額増加のパターンでございます。基本使用料を15%増額、基本水量を廃止した10^mまでの単価を10円としますと、11^m以上の従量使用料の単価は一律30円増額となります。使用料体系は基本使用料が110円増加の828円、11^m以上の従量使用料は全ての水量区分で30円の増加です。使用水量による使用料増加を確認しますと、0^m、10^mの利用者が30%未満の増加で、20^mから50^mの利用者が30%を超える増加、150^m以上の利用者は30%未満の増加となります。

25ページをお願いいたします。

判断基準に基づきまして、各水量区分での使用料収入見込額、増加率を確認しますと、④-1と同様に0~10^mまでの水量区分が22%の増加となり、30%未満のため判断基準から外れることとなります。

1枚めくっていただきまして26ページをお願いいたします。

使用料体系案の検討結果を表にしました。上から順番に確認をいたします。④-1が基本使用料と従量使用料の割合が4対6で基本水量あり、従量使用料が定率増の場合は現状から変化がなく、小口利用者の増加率が変わりませんので、判断基準を満たしておりません。続いて、④-2が4対6で基本水量あり、定額増の場合も0~10^mの水量区分の増加率が上がりませんので、こちらも判断基準を満たしておりません。

②-1が4対6で基本水量なし、定率増の場合は小口利用者が30%を超える増加率になりましたので、判断基準を満たしております。②-2が4対6で基本水量なし、定額増の場合も②-1と同様に小口利用者が30%を超える増加率になりましたので、判断基準を満たしております。

③-1と③-2で、3.5対6.5で基本水量ありの場合は0~10^mの増加が30%未満となりますので、判断基準を満たしておりません。

④-1、3.5対6.5で基本水量なし、定率増の場合も計算した結果、0~10^mの増加が30%未満となるので、判断基準を満たしておりません。④-2、3.5対6.5で基本水量なし、定額増の場合も④-1と同様に、0~10^mの増加が30%未満となるので、判断基準を満たしておりません。

⑤-1と⑤-2、3対7で基本水量ありの場合は、0~10^mが値下げ、つまり改定率マイナスとなりますので、判断基準を満たしておりません。

最後に、⑥-1と⑥-2、3対7で基本水量なしの場合ですが、0^mが値下げとなりますので、検討対象から外すべきものとさせていただきますが、仮に計算しましたとして

も、④－１、④－２が判断基準を満たさない上、それよりも0～10m³の水量区分の増額が少ないわけですから、これも判断基準を満たさないと分かります。

以上から、判断基準を満たすものは、基本使用料と従量使用料の割合が4対6で基本水量なし、従量使用料が定率増の場合の②－１と定額増の場合の②－２となります。

以上で資料２の説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【萩原会長】

ただいま事務局から資料２に基づき説明がございました。

御質問、御意見などございましたら、御発言をお願いいたします。

この資料２、使用料の体系について、いろいろ御説明いただきましたけれども、最終的には26ページの体系案の検討結果に示されたとおり、②－１と②－２が、今回30%以上増加という判断結果を示されております。この内容について、それぞれ詳細な説明いただきましたが、御不明な点等がありましたら、また、この事務局の御意見、提案について、何か委員の皆様、御意見ございましたら、どこからでも構いませんので、よろしく願いいたします。委員の皆様、ございませんか。

A委員、お願いします。

【A委員】

いろんなパターンについて説明していただいて、ありがとうございます。

ほかの市町の料金改定だと、大体、基本料金を上げるというような、ウエートを高めていくような改定をしていますが、もともと小牧市の場合、現行で基本と従量の割合が4対6ということで、もともと基本使用料の比率が高いものですから、結果的にはよかったのかなとは思っています。

あと、この基本水量も、なしにすることによって小口利用者の方のウエートがもう少し高まるみたいなことがあるものですから、いいのかなと思います。

あと、問題は、やはり定率なのか定額なのかというところで、この4月でも結構検討されているところだと思うんですけど、結局のところ、さきほどのマンションの話があるものから、全て大口利用者が産業かというところでもないみたいなんですけど、それに対する配慮をどうするのかというところに議論があるところかなと思います。その辺、市のほうで何かお考えとか、あと、小牧市の業種というのですか、どういったところが水

量をたくさん使ってみえるようなところになるのかとか、そういった市のお考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

【事務局】

大口使用者の業種ですけれども、やはり医療関係、病院など、あと、やはり工場系やホテルも若干多いかと思います。業種的にはそのような医療系のところ、工場系になります。

大口利用者に対しての配慮というところですが、今回の第2回については、今の使用料の中の基本使用料と従量使用料の割合、この部分を決めていただきまして、次のところで、定率と定額の、今度は一番重要な単価のところに入っていきますが、そこでどのようなところに落ち着くかというところをまた御提案させていただきたいと思っております。

ですので、大口使用者の方への配慮という部分につきましては、やはりある程度一定な形で、この定率ですと率を一定に、定額ですと額を一定にというのが基本にはなっておりますので、そちらを基にどの辺りが良いのか、小口の方からも取りますので、大口の方を安過ぎてもいけないですし、小口の方を高過ぎてもいけないというところが、やはり最終的な判断のところになってくるとは思いますので、そちらについてはまた提案をさせていただきたいと思っております。

【A委員】

そうすると、次回に具体的な、どちらにするのかみたいな判断はあるということですかね。その判断をするに当たって、感覚的には、特にその工場みたいなところがどうしても高いものですから、近隣との比較というのも大切だと思いますが、そういったのも次回に提示されるということですか。

【事務局】

そのように予定をしております。

当然、大口への配慮等々も考える中で、具体的にお示ししないと難しいかとは思っております。一応資料の用意させていただいております。もし判断をする中で、この2つの中で比べる必要があるということであれば、よろしければ、新たな資料を出させていただいて、具体的にどれぐらいになるのかというところも含めて説明をさせていただこうかと思っております。

【萩原会長】

ありがとうございます。A委員、よろしいですか。

【A委員】

はい。

【萩原会長】

そのほかに御質問ございますか。

【B委員】

御説明ありがとうございます。委員の方々が資料をちょっと見ていただいて、考えていただくつなぎとして、基本的なことをお聞きしたいと思いますが、今回の資料ですけれども、まず、基本的にはどこから見ればいいのですかね。14ページ、15ページとかを見ていただく、あるいは9ページですかね。実際に、料金について差額分のところを合計すると10.4億円ですけど、この10.4億円をどういうふうに皆さんに御負担していただくのかという、その使用料区分別の負担を検討するということの理解でよろしいですか。だから、10.4億円収入を増やすというところが出発点だというふうに理解すればいいということでしょうか。

その中で、1つはこの使用水量ですけど、これ下水道料金なので、基本的には水道メーターのものとして理解はしていますが、水道メーターではなく、例えば井戸などで下水に接続しているであるとか、そういうところほどのぐらいあって、その料金体系はこの中だどのようになるのかというところを教えてくださいたいと思います。それがそれほど率的にもあまりないのであるのか、あるいは、どれだけ量を、使っているのかといったところの、そういったところは、大体大口のような気はするので、自ら井戸を掘ってとかになると、そこはどう考えるのかといったところを教えてくださいたいというのが2点目になります。

もう一点は、先ほどA委員もおっしゃいましたけれども、水道も国土交通省に移管しましたけれども、今後、日本全体として、下水道が整備から維持管理に移行していく中で、やはり固定で絶対に必要な料金である固定費と、それから変動費というのがあると思いま

すが、例えば下水道の受ける量が増えれば増えるほど支出が大きくなる費用と、それから、量には関係なく、小牧市の中に下水道があって、広域下水道にも接続している段階で、毎年これだけは絶対に必要である費用という、その割合を考えたときには、恐らく4対6を下げるという選択肢はあまりないのではないかという気はしています。

逆にそれを考えると5対5とか、将来的には何か考えていかないとやっていけなくなるのではないかなという気もしていますので、そういった考え方から、少し基本使用料と従量使用料の割合というのは、全国平均を追いかけるというよりは、そういう、もう一つ、固定費と変動費っていったようなところも判断基準の中に入れておいていただくと、より市民の方にとっても、要は流さなくてもこんなに費用は要るんだというようなことも何か大事な情報のような気はします。これまでの委員会でも数字として出てきていたのであれば、私が失念しているだけで申し訳ないのですが、全国平均だけでなく、出ていくところの変動費、固定費なども参考値としてはあったほうがいいと思います。

長くなって申し訳ありませんが、この資料全体ですけど、基本水量と基本使用料というのが両方、基本、基本ってなっていて、基本水量廃止で、基本使用料は廃止じゃないのか、何かその言葉が、ぱっと市民の方が見たときに、基本水量廃止って言っているのに基本使用料はあるというところなど、少し言葉は、基本水量のほうは工夫していただいたほうがいいかなと思いました。

以上4点になります。

【萩原会長】

ありがとうございます。ただいまの御意見、御質問等も含めてなんですけど、事務局、御説明いただけますか。

【B委員】

1点目は皆さん、うんうんって言っていたので。

【萩原会長】

1点目はその10.4億円を配分するという確認でしたので、確認までは済んだということでもよろしいですかね。2点目以降の、例えば井戸水の利用者に関してどうやって水量を把握しているのか、また、そうした井戸水利用者の多くが大口利用者ではないかという御指

摘についてなんですけれども、こちらからお願いいたします。

【B委員】

もしそういうところが数社しかなくて、個別の情報が特定されるようなのであれば特段答えていただかなくても結構ですが。

【事務局】

今の井戸についてですけれども、大口の物件で井戸を使用されて、下水に量をたくさん流されているということは、現在のところは小牧ではほとんどありません。逆に、水道メーターで測ると下水に流していない部分があるという業者さんもみえまして、その部分の下水への料金を安くすることが出来る、減量することが出来るという制度がありますが、そちらのほうどちらかという和多いというか、件数が数件あるというふうになっています。

あと、実際に井戸で測っているところというのは、一般の家庭でもともと井戸を持っていて、水道と井戸を併用して使っているというところがありますが、そこもそれほど何百件とかというような数ではないですので、通常の水道のメーターで検針しているものとそれほど件数をさらにプラスというものではないと今は考えております。

【萩原会長】

よろしいですか。

【B委員】

ありがとうございます。

【萩原会長】

それでは、先ほど固定費と変動費に関する従量使用料との割合について。

【事務局】

固定費と変動費につきましては、前回の第1回の審議会でも触れさせていただいておりますが、3年間の必要対象経費としては約70億円の対象経費がございます。そのうちで固定費が43億円ほどで、変動費で23億、需要家費という形で3億、端数は削っていますので

足すと合わないかもしれませんが。その固定費を、ではどのように基本使用料と従量使用料で分割するかというところが前回も議論になりましたが、そこで約25億が基本使用料の部分で、固定費のうち、従量使用料が約18億円になっております。そのような形で固定費をそれぞれ従量使用料と基本使用料に分割して、固定費、変動費も考えて、数字はつくってあります。

今後、今回は第1回の改定ですが、第2回はおよそ3年後という形を取っておりますので、その3年後も当然、同じように固定費、変動費、さらに今後は拡張されていきますので、B委員がおっしゃられるように、変動費の部分、固定費の部分もかなり上がってくるというのは想像がつきますけれども、当然、その固定費、変動費を見ながら使用料改定は行っていくような形にはなっていくかと思えます。

もう一つ、基本水量と基本使用料のお話ですが、やはり基本使用料というのは、いわゆる定額というのか、もともと使わなくてもかかりますよという部分につきましますし、それに基づいて今までゼロから10m³までがゼロ円だったという部分を基本水量という言い方をしておりましたので、確かにB委員がおっしゃられるように、基本水量と基本使用料というのがありますので、今後、基本水量の言い方を変えたほうがいいと私も今の御意見をいただきまして思いましたので、何か分かりやすい名称を考えたいと思っております。ありがとうございます。

【B委員】

先ほどの後半の2つとも、やはり市民の方にどう分かっていただくのかというところを、理解していただくのか、どう伝えられるのかといったところがとても重要ですので、ぜひ検討のほうをお願いできればと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

【萩原会長】

それでは、よろしくお願いたします。

【事務局】

先ほどの井戸の件で補足です。データは古いですが、令和3年3月現在の数値として、井戸メーターとして検針して、下水道料金を賦課させていただいているのが約130件になっております。そんなに今現在増えているというものはないと思われますので。

水量までは、今データとしてありませんので、件数という形になります。

【B委員】

井戸にメーターをつけていただいて、その数字を報告していただいて、それに基づいて下水道料金をお支払いしていただいているという、そういう理解でよろしいですね。

【事務局】

そうです。

【B委員】

一部からは下水道のほうにメーターをつけてほしいという要望が何件かあるという、そんな感じでしょうか。

【事務局】

そうですね。

【B委員】

ありがとうございます。

【萩原会長】

ありがとうございました。

そのほかに委員の皆様、御意見、御質問等ございますか。ございませんか。

今回、事務局から検討いただいて、最終的に26ページのところで、体系案の検討結果となっていますが、この基本使用料と従量使用料の割合、先ほどB委員からも御指摘ありましたように、今後、その整備から維持管理ということを考えていくと、全国平均にならうよりも、4対6から基本使用料を下げないことが、今後の小牧市の下水道維持をしていくためには、必要なことなのかなと思いました。

また、この小口利用者に関して、30%以上を確保するということが、小口利用者に焦点を当てたように思われると大変なことですので、この点、先ほどB委員からもありましたように、丁寧な説明が、やはり今後も必要だと思います。市民の皆様には水道、下水道使用料の改定が必要だとか、あるいはその増加が必要だとか。その場合、小口利用者の方々にも、件数で見るとどれぐらいでしょう。調定件数を6で割ると契約者数になるとのことでしたので、そうすると、大体3万、4万人いらっしゃるとしたら、非常に多くの住民、市民の方がいらっしゃいますよね。今後、小牧市の下水道事業を維持していくためには、どうしてもその小口利用者のゾーンの改定が必要だと、そうした方々の御理解も当然いただかなければいけません。今後は小口利用者の割合が増えていくということ、大口利用者は小牧市では非常に少なくなってきており、その大口利用者をいくら増額しても、今後、小牧市の下水道事業を継続することは難しいことなど、とにかくいろいろな点で市民の皆様にはしっかりと理解いただけるような説明、そして、分かりやすい説明が必要であると思う次第です。

今回の判断基準から検討した結果としては②-1、②-2が妥当であるということが事務局の提案でしたが、次回以降、さらに詳細な検討となったときに、恐らく今回、判断基準から外れたものについては、また、次回以降、改めて検討するというのではないでしょうから、そうすると、今、この場で委員の皆様、御意見、御質問、あるいは今聞いておきたい点がございましたら、お願いしたいと思います。どうでしょう。よろしいですか。特に御意見ございませんか。

【C委員】

この②-1、②-2を、先ほどからじっと見ておるわけですがけれども、定率なのか定額なのか。これは取りあえず基本的に大口に負担がかかるなら、②-2のほうがいいかなとか、そういう判断をするわけですがけれども。

要は、満遍なく、不公平さをなくすということが表に出ていると思います。ただ、基本的には、値段を上げるターゲット、例えば、20m³までとか40m³までとかいう、こういう話になっているわけですがけれども、定率と定額の違いというのをちょっと、1字違いなんですけれども、もう少し説明をお願いしたいなと思います。

それで、そもそも値上げのターゲットというのは当然、ランニングコストもかかるし、必要経費もありますけど、経費がどんどん毎年上がっていくと思いますけれども、単価を

上げるための対象を、やはり大口を使う会社等もありますが、私ども、業界の立場からしますと、定額のほうが定率よりも、経費としては振り分けが楽かなというふうに感じている次第です。ちょっとその辺をお伺いしたいです。

【事務局】

定率と定額の違いですが、まずは定率というのは、値上げの率を一定に、今、従量使用料には、ゼロ m^3 から10 m^3 、11 m^3 から20 m^3 、21 m^3 から40 m^3 、41 m^3 から100 m^3 、101 m^3 から500 m^3 、501 m^3 以上の6つの区分がありますが、値上げの率を例えば10%とすれば、全て10%上げますという形ですので、単価が高くなれば、同じ率で上がっていきますので、どうしても高くなります。

それに対して、定額というのは、例えば20円であれば、全ての区分帯で20円上げますという考え方ですので、20円となると、もともと小さい単価のところは20円、大きい単価のところは20円となれば、大きい単価の大口の部分については、増加率としては、下がってきます。

ですので、やはり大口の使用者の方のことを思うと、定額のほうが値上げの額的には下がってきます。定率であれば、同じ率で値上げしますので、10%であれば、100円の10%、1,000円の10%という形になりますが、定額であれば同じ金額で値上げしますので、10円であれば、100円に対しては110円、1,000円に対しては1,010円になりますので、やはり定率と定額となると、その単価の大きいほうへ行けば行くほど、実際に計算される金額は大きくなっていくという形にはなりますので、値上げの額としては定額のほうが定率より小さくなります。

【C委員】

ありがとうございます。

【萩原会長】

そのほかに御意見、御質問ございますか。よろしいでしょうか。

【D委員】

こういうのは意見なのかどうなのか、自分でも悩んでいますが、公平感を出すために、

基本水量の廃止を検討するというのが前回の資料などで出ていましたが、その公平感というのがどうも分からなくて、何か無理やり公平感を出しているんじゃないかと感じます。要するに、ターゲットをどこに持っていくのかとか、そんな話が出ていて、本当に公平感がどこにあるのか分からなくなったというのが正直なところですよ。

A委員からの意見で、小牧市は先を見ていた数値設定をしていたというところもあったかと思うんですけど、そういった観点で、値上げするのなら、①-1の全部30%改定するというのもあるのではないかとこのをずっと考えていて、自分の中でもまだ結論は出ていませんが、①-1が土俵に上がるのかどうか、考えていただくのも1つなのではないかと思っています。

【萩原会長】

ありがとうございます。今、D委員からお話がありました点について、事務局、説明いただけますか。公平感という指摘とともに、また、それを前提としたその案①-1の一律30%ということの可能性、この点について御説明いただければと思います。

【事務局】

公平感というところがまず1点目なんですけれども、今現状、やはりゼロから10^mの方の方は、基本料金だけで使った分は支払われていない。そういう意味では、1^mでも使えば、使った分はお願いしますという形の公平というふうに捉えております。

①-1にしようというのが、やはり今申したように、まずは、基本水量を廃止することによって、その公平性を保ちたいという前提に乗っていきますと、やはり①-1については、ゼロから10^mの方が基本料金だけで使った分は払っていないという形になるものですから、その部分で、今回、①-1については、D委員が言われるように一律30%上げれば公平じゃないかというのも、考え方としてはあるかなとは思いますが、やはりそのゼロから10^mのところの使用者も、まずは使ったものはお支払いをいただくところの公平性をまず前提に置いておりますので、その部分で、①-1は今回外させていただいたという形になります。

【萩原会長】

よろしいですか。

今の事務局の御説明では、基本使用料とは別に使った分は払っていただくということだったのですが、スマートフォンなどでは、一定程度、基本使用料の中に使える分の例えばギガ数や通話料が入っている契約制度もあるので、実際使った分を含めた基本料と考えれば、基本使用料を払っているし、使った分も払っているという考え方も実は成り立つような気がします。ですので、使った人から払ってもらうというのは当然であるけど、それは1㎡使った人も基本使用料は払っている、そこに含むと書いてあるならば、使った分を払っているよという、そういう主張も成り立つわけで、そうすると、確かに公平性を担保するために、この料金改定するという話には違和感があると考えられるのは、むしろ当然かなという思いがしますので、その公平性担保ということを前面に出すよりも、これまでこの審議会でも話があったように、小牧市の上下水道事業を維持していくためには、やはり小口利用者の方々にも、大口利用者の方々にも小牧市民、利用者の方々には皆、料金の改定を行っていく必要があるということを説明していったほうがいいのではないかと思います。今のD委員の御発言を受けての私見ですけれども、また、御検討いただければと思います。

こうした点について、委員の皆様で、それぞれ御意見、もしあればよろしく願いいたします。

D委員、よろしいですか。

【D委員】

結構です。

【萩原会長】

分かりました。それでは、B委員。

【B委員】

まさしく今、D委員の意見に関わることをコメントしようと思っていたんですけども、今、下水道も水道も、逡増制、要は使用量が大きくなればなるほど単価が上がっていくという、そういう料金体系になっています。これは小牧市さんだけではなくて、日本、多くのところがそうなんですけれども、それはやはり、これまでの歴史的背景があると思っていて、高度成長期は、当然どんどん開発しないといけないし整備もしていけない

い。そういった中で、たくさんの使用者がいると、その整備が追いつかないので、できる限り節水であるとか、そういう努力も促すという意味での逡増制という料金体系がこれまでであったと理解しています。

そう考えると、逆に言うと、これまでは大口利用者の方々に支えてきていただいていたというふうにも理解はできると思います。ですので、実際に小口使用者が大口使用者に随分と支えていただいていたというのが、これまでの歴史あるいはこれまでの料金体系であるので、それを今後も大口の方にこの小牧市を支えていただこうと考えるのか、いや、やっぱりみんなで支えようよという形になっていくのか、何かそういうところが大事な気はするので、なので、ちょっと小口の方に今回は負担いただくというのは、表現としては、何か検討はしたほうが良いと思っています。

そういうみんなで支えましょうという、何かそういうメッセージをやはり前面に出すといえますか、理解していただくことがとても大切ではないかなと思います。

そういう観点からすると、これまで大口の方が随分と支えてきていただいたんです。現行の料金体系だと、そうなくなってしまっているんですという、何か、その理解をどうしていっていただくのかというところが、先ほどのD委員の回答ではないですけど、一緒に考えていくことになるのではないかなというふうには思いました。

【萩原会長】

ありがとうございます。ただいま、B委員の御指摘について、御意見等ございましたら、よろしくをお願いします。

【C委員】

追加じゃないですけども、いろいろ会議でお聞きしていますけど、非常に難しい言葉を、専門用語等の難しい言葉を使い過ぎて、かえってそれをかみ砕いて、理解しろというほうが難しいと思います。

だから、今の話ですけども、例の基本水量、基本料金という、その言葉を基本使用料、あるいは利用基本料とすれば、1㎡でも0.5㎡でも、とにかくひねった時点でかかりますよと、要は道具を使うための料金ですよと、そういうことの間を皆さんに知らせたほうが、その基本水量、基本料金という、昔から、もう70年前から聞いていますけれども、そういう言葉も必要なんですけど、もう少しかみ砕いて、どうしたら理解していただける

のかということを考えていただければ、その基本というものについては問題はないと思います。

【萩原会長】

ただいまC委員からもお話がありましたが、B委員、そしてC委員のそれぞれ御指摘について事務局、御意見をお願いします。

【事務局】

いろいろ御意見ありがとうございます。言葉のことでしたり、小牧市の背景でしたり、そういうところも含めて、結局は、やっぱり市民の皆様にとどのように理解していただいて受け入れていただいて、払っていただくかというところが一番重要だと思います。

また、今後、最終的には答申という形でまとめることになるかと思いますが、そちらにも文書で入れ込むことによって、より皆さんに理解していただけるような形での答申で結べたら良いと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【萩原会長】

C委員、よろしいですか。

【C委員】

はい。

【萩原会長】

B委員もよろしいですか。

【B委員】

はい。

【萩原会長】

本当に分かりやすく市民の皆さんに理解いただけるように説明していただくということと、先ほどB委員からの意見にもあったように、本当にみんなで小牧市を支えていこうというイメージというか、そういうメッセージがやっぱり市民に伝わるような、そうした理

解、説明をしていただきたいに思いますのでお願いします。

そのほかに、委員の皆様、御意見、御質問ございますか。よろしいですか。大丈夫ですか。いいですか。

どうぞ。

【E委員】

すでに回答をいただいたようなことですが、小牧市は年寄りが多い、小牧市だけではないですが、年寄りが多い。それからこういう値上げとかになるとすごく敏感に反応されると思います。だから、分かりやすく、年寄りにも分かるような広報をしていただきたいと思っております。値上げをすることはもう決して反対でもありませんけど、経営が成り立たないような状況では大変ですので、それは非常に危惧しておりますので、これからも頑張っていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【萩原会長】

ありがとうございます。ただいまの意見、しっかりとまた、踏まえてまとめていただければというふうに思います。

ほかにもございせんか。よろしいですか。

いろいろと御意見いただきありがとうございます。皆様から意見も出尽くしたという感がありますので、議論はここまでいたします。今回出た意見を基に、次回の審議会では、さらに具体的な使用料体系の改定案の提示をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

審議、ありがとうございます。先ほど少しお話しましたが、この方向性に基きまして、使用料体系の改定案を準備してきております。そちらを次回の資料、次回はまたさらに詳しい資料になりますが、さわりの部分という形で資料をお渡しさせていただきます、今日、若干説明もさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

【萩原会長】

ただいま事務局から追加資料に係る説明がございましたが、皆様、この場で資料を御提示いただけるということですよ。よろしいでしょうか。

特に反対もございませんので、よろしく願いいたします。

(資料3 配付)

【事務局】

それでは、資料3につきまして、御説明させていただきます。

下水道事業の使用料体系案の比較についてですけれども、資料2の最後、26ページにもありましたように、基本使用料と従量使用料の割合が4対6、基本水量は廃止、基本水量という言い方については、今後検討したいと思います。基本水量は廃止として、定率増、定額増の両方を検討していくことになりました。

そこで、資料3では、実際に1から10^mまでの単価を10円、15円、20円と変更した場合に定率増、定額増でそれぞれ使用料体系がどうなるかを説明させていただきます。

まず、2ページをお願いします。

1番の従量使用料を定率増とした場合です。こちら、基本使用料と従量使用料の割合を4対6、基本水量廃止部分の単価を10円と15円、20円としたときに、定率増で収入が30%増加する体系がこちらの図になります。基本水量廃止部分の単価が10円の場合は、11^m以上の従量使用料の区分は一律22%の増加になります。15円の場合は一律18%の増加、20円の場合は一律14%の増加となります。定率増ですので、水量が多い区画ほど単価の増額も多くなります。

3ページをお願いします。

こちらのグラフにつきましては、0^mから40^mまでの各水量使用者の使用料増加率をグラフにしたものでございます。こちらを見ていただくと、全てのグラフで使用水量10^mが増加率最大になっているということが分かります。また、基本水量廃止部分の単価が高いほど、10^mの最大増加率が高くなっています。

11^m以上の部分については、使用水量が24^m以下では基本水量廃止部分の単価が高いほど増加率が高く、使用水量の27^m以上では基本水量廃止部分の単価が高いほど増加率が低くなっています。なお、25^m、26^mについては、同じ値のものがあ、明確な解析ができていない状況でございます。

4ページをお願いいたします。

従量使用料を定率増とした場合に、具体的にそれぞれの御家庭でどの程度御負担が増え

るのかを確認いただくため、使用水量をピックアップして消費税込みで改定後の増加額を表にいたしました。

ピックアップした水量区分ですが、小口使用者では資料2の水量区分のグラフで、件数が多かった7m³と19m³、そして、先ほどのグラフで増加率最大になっている10m³をピックアップしました。20m³以上については、東京都の令和2年度生活用水実態調査で4人世帯の平均使用水量が23.1m³、5人世帯の平均使用水量27.8m³となっていたものを四捨五入して23m³と28m³もピックアップしました。

商業施設等の大口使用者ですが、従量使用料の区分が41m³から100m³、101m³から500m³、501m³以上と分かれていることから、それぞれの区分から50m³、150m³、8,000m³をピックアップしました。なお、店舗規模によってずれはありますが、50m³はコンビニエンスストア、150m³は喫茶店をイメージしていただければいいかと思います。8,000m³については、小牧市内の下水道最大使用者の水量になっております。

前のページのグラフでも御説明しましたが、基本水量廃止部分の単価が高いほど、10m³の最大増加率が高くなり、最下段の20円ですと、金額としては457円の増加ですが、増加率は57.8%まで上がります。そのため、今回、基本水量廃止部分の単価は、20円を超えた単価は検討いたしませんでした。また、使用水量が多いほど増加率は低くなりますが、もともと支払っている使用料が高いので増加額も高くなり、8,000m³ですと21.9%でも30万円、13.8%でも19万円の増加となります。

5ページをお願いいたします。

使用料算定期間である令和7年度から令和9年度までの水量区分別の収入増加見込額をグラフにしたものでございます。基本水量廃止部分の単価が高いほど、小口使用者の増加額が高くなり、より経営が安定することが期待できますが、その分、使用水量10m³付近の方の増加率が突出してしまうので、どこが最適かを検討する必要があります。

続いて、定額増の場合を御説明いたします。

6ページをお願いします。

2番の従量使用料を定額増とした場合になります。

基本使用料と従量使用料の割合を4対6、基本水量廃止部分の単価を10円、15円、20円としたときに、定額増で収入が30%増加する体系がこちらの図になります。基本水量廃止部分の単価が10円の場合は11m³以上の従量使用料の区分は一律21円の増加、15円の場合は一律17円の増加、20円の場合は一律13円の増加となります。定額増ですので、全ての区画

で同じ金額だけの増加になります。

7ページをお願いいたします。

3ページ同様、0 m³から40 m³までの各水量使用者の使用料増加率をグラフにしたものです。定率増と同様に、全てのグラフで使用水量10 m³が増加率最大になっていることが分かります。また、基本水量廃止部分の単価が高いほど、10 m³の最大増加率が高くなっています。11 m³以上の部分については、使用水量22 m³以下では基本水量廃止部分の単価が高いほど増加率が高く、使用水量23 m³以上では基本水量廃止部分の単価が高いほど増加率が低くなっています。定率増に比べて増加率が逆転する水量が少ないことが分かります。

8ページをお願いいたします。

こちら、4ページ同様、具体的にそれぞれの御家庭でどの程度御負担が増えるのかを確認いただくため、使用水量をピックアップして消費税込みの改定後の増加額を表にいたしました。ピックアップした水量区分は、4ページと同じ水量でございます。7 m³、10 m³は、従量使用料の影響を受けませんので、定率増と全く同じ金額になります。

また、19 m³から50 m³までは定率増に比べて定額増のほうが、増加率が高いのに対して、150 m³、8,000 m³では定率増よりも定額増のほうが、増加率が低くなっています。

9ページをお願いいたします。

こちら、5ページ同様、使用料算定期間である令和7年度から令和9年度までの水量区分別の収入増加見込額をグラフにしたものです。定率増と同様に、基本水量廃止部分の単価が高いほど、小口使用者の増加額が高くなりますが、基本水量廃止部分の単価が同じところでは、11 m³から20 m³までの増加見込額が定率増よりも定額増のほうが多くなっており、より経営の安定が期待できます。

10ページをお願いいたします。

こちらは、3ページと7ページでの0 m³から40 m³までの各水量使用者の使用料増加率のグラフを比較するため合体したものでございます。基本水量廃止部分の単価が20円のものには最大増加率が高過ぎることから、見やすさを優先して削除しております。このグラフから、定率増も定額増も10 m³までは同じ増加率ですが、11 m³から40 m³の間は定率増よりも定額増のほうが、増加率が高いことが分かります。

最後に、今回の資料で分かることを2項目にまとめます。1つ目ですが、基本水量廃止部分の単価を上げるほど、小口使用者からの収入の増加が見込めますが、最大増加率である10 m³の水量区分及びその前後の増加率が高くなるため、最適なものを検討する必要があります。

ります。2つ目に、定率増に比べて定額増のほうが、11㎡以上使用する小口使用者の増加率が高いため、より小口使用者からの収入の増加が見込めます。これら2点を踏まえまして、次回の審議会では、どの使用料体系が適切かを検討していただきたいと考えております。

事務局からの説明は以上です。

【萩原会長】

委員の皆様、ただいま資料3の説明がございましたが、ここでいきなり質問ということも難しいかと思えます。こちらは、次回の会議でまた御説明いただけるんですよね。

【事務局】

そうです。資料は、会議の1週間ほど前にはお送りする予定ですが、1週間前にぽんと資料を見せられてもなかなか分かりづらいなというところもありましたので、今回、事前説明をさせていただきました。出させていただいた資料を基に、第3回の資料を作成いたします。先ほどもお話がありましており、他市の状況とかも含めて、分かりやすいような資料を予定しております。ですので、大体どの御家庭の使用水量がどれくらいなのかというところを今回お示しさせていただいた上で、また、10円、15円、20円というところのものの、今無料のところを、金額を幾らにするかというところも含めて、次回の審議会で御検討いただければと思っております。

【萩原会長】

それでは、次回の審議会で、また、この詳しい説明がありますが、今日は事前に委員の皆様にお示しし、少しでも情報を提供しておきたいという事務局の意向だというふうに考えます。

この資料3について、まず委員の皆様、この場で、次回の審議会で詳しく説明するのでそこで質問していただければいいんですけど、今日ここで質問しておきたいことがあればお願いしたいし、また、次回審議会で、先ほど最適なものとか適切なものがあった、その判断基準は難しいと思うんですけど、私はよく分からないんですけど、例えばそういう判断をする際に、こういう情報が必要だよとか、もしあればおっしゃっていただければと思えます。

今日、この場でなくてもいいですよ。

【事務局】

この資料を御覧いただき、後日、事務局の上下水道経営課に御連絡いただければ、そちらも併せて、次回の審議会で説明させていただこうと思っておりますので、何なりと御意見、御要望をいただければと思っております。

【萩原会長】

それでは、ただいま事務局からそのように御説明いただきましたので、この資料3に係る質問、もしあれば、直接事務局に御連絡いただければ、また次回審議会で説明してもらえるだろうし、また、次回審議会、第3回審議会で、この資料3に関し、例えばこのような情報が欲しい、そういう連絡も事務局にしていいただければ次回審議会で御用意いただけたと思います。それを前提として、この場でどうしても聞いておきたいということがあれば、委員の皆様、よろしくお願いします。

私もいきなりこの資料3を見て、質問と言われてもなかなか難しいので、それでは、委員の皆様にはお読みいただき、また次回審議会でもこうした内容を検討しますので、事前に質問等あれば事務局をお願いをしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、資料3に関しましては以上とさせていただきます、次第の4に移ります。その他に移らせていただきます。

事務局、何かございますでしょうか。

【事務局】

次回の審議会であります、9月4日の水曜日、午前9時30分から、本日より同じ会場、味岡市民センター2階の視聴覚室での開催を予定しております。開催時間が早まり申し訳ございませんが、またよろしくお願いいたします。正式な通知につきましては、また後日送付させていただきます。

また、本日の会議録でございますが、事務局で作成次第、委員の皆様へ送付させていただきますので、御確認をよろしくお願いいたします。また、御確認いただいた後に、市のホームページ等で公開させていただく予定です。

事務局からは以上です。

【萩原会長】

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がございましたように、次回審議会は9月4日9時30分ですね。ここの味岡市民センターということで、よろしく願いいたします。そのほか、今、事務局から説明ありましたが、何か御質問等ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日予定された議題は終了いたしました。委員の皆様におかれましては、議事進行に御協力、感謝申し上げます、事務局のほうにお戻ししたいと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたり御審議いただきまして、誠にありがとうございました。また、次回9月4日ということで、よろしく願いしたいと思っております。

会はこれで閉じたいと思いますが、まだまだ梅雨の時期で、雨が降り、車の運転等、注意していただきまして、交通安全にはくれぐれも注意していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして、令和6年度第2回小牧市上下水道事業経営審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。